

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和6年度 第1回伊勢崎市男女共同参画推進協議会
開催日時	令和6年5月31日(金) 午前10時～11時00分
開催場所	市役所 東館5階第4会議室
出席者氏名	【委員】 日詰会長、渋澤副会長、江原委員、阿久津委員、尾島委員、川田委員、西田委員、新井委員、吉澤委員、齋藤委員、女屋委員 【事務局】 市民部長、市民部副部長、人権課長、人権課長補佐、男女共同参画係
傍聴人数	0人
会議の議題	(1)第4次男女共同参画計画の策定スケジュールについて (2)伊勢崎市における男女共同参画の現状と課題について (3)第4次男女共同参画計画の骨子案について (4)その他
会議資料の内容	(1)第4次男女共同参画計画の策定スケジュールについて（資料1） (2)伊勢崎市における男女共同参画の現状と課題について（資料2） (3)第4次男女共同参画計画の骨子案について（資料3）
会議における議事の経過及び発言の要旨	1. 開 会 〔出席委員が過半数を超え会議が成立していることを事務局から報告〕 2. 挨 拶（会長） 3. 議 事 事務局 〔議事(1)について説明〕 会長 ただいまの事務局の説明について、委員の皆様から、ご意見やご質問はございますか。

会議における 議事の経過及び 発言の要旨	委員 (質問等なし) 会長 それでは、特にご意見がないようですので、第4次男女共同参画計画の策定スケジュールについては、案のとおり進めることと決定いたします。 事務局 〔議事(2)、(3)について説明〕 会長 ただいまの事務局の説明について、委員の皆様から、ご意見やご質問を伺いたいと思います。 委員 アンケートは、女性と男性の回答比率はありますか。 事務局 こちらの資料で記載はありませんが、実際には女性と男性の回答比率はございます。 委員 比率の違いは具体的にどうなっていますか。 事務局 「夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである」という考え方についての設問に関しては、男性の方がこの設問に賛成する割合が高くなっています。ただ、大きく差がでているわけではありません。また、差がつくという点でお示しますと、主に50代以上の男性が同年代の女性と比べて賛成する割合が、10ポイント以上高いという結果がでております。 会長 「夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである」という考え方について賛成とした理由のグラフの中で、一番高い回答に「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」がありますが、こちらも性別による回答の違いはありますか。 事務局 この設問は、そもそも有意な回答が少ない質問ではありますが、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」との回答は、男性と比較すると、女性の方が15%以上高い結果がでています。 会長 こちらも、年代が高い方が、性別による差が大きいですか。 事務局 こちらの設問は、年代までの分析はできておりません。 委員 サンプリングした事業所の関係ですが、どのような事業所を中心にサンプリングしましたか。規模によって、そもそも女性がいらない職場などもあるかと思いますので
-------------------------------------	--

参考に教えていただければと思います。

事務局

調査対象ですが、伊勢崎商工会議所と群馬伊勢崎商工会の各会員にご協力いただきまして、無作為に800事業所を抽出し、その中で回答していただいた事業所になります。

会長

5ページの「事業所におけるワーク・ライフバランスのための取組」についての棒グラフで、短時間やフレックスなどが1番進んでいるという一方で、仕事と介護、仕事と育児の両立支援は、まだそこまで進んでいないという回答がでてるのは、まず基本的な働き方などが優先されているという解釈ができるのかと思いましたが、いかがですか。

事務局

今回ご協力いただいた伊勢崎商工会議所と群馬伊勢崎商工会の各会員は、実態として中小の事業所が多いかと思います。6ページを見ていただくと、ワーク・ライフバランスを推進する上での課題として挙げられているのが、代替要員が確保できないという回答が、最も多い結果となりました。代替要員が確保できないから、働き続けていただきたいという考えで、事業所側のサポートとして、短時間勤務やフレックスタイムなど、勤務時間の柔軟化を行っているため、ワーク・ライフバランスの取組の中でも推進している取組として挙げられていると理解しております。

委員

事業所を対象に行った調査かと思いますが、短時間勤務やフレックスタイムなどの取組が行われているということで、制度として会社が設けたけれど、実際にこれを利用されているのか。そういったデータがあれば知りたいです。

事務局

具体的にこの項目を実際に活用しているのかというのは、聞いておりませんが、例えば同じ調査の中で、実際に育児休業を取得した実態としての従業員数や、育児休業の取得割合の状況の調査自体はしておりますので、後でお示しできればと思います。

委員

このような調査をしていただいたのは、非常に前向きでよいと思います。また、例えば伊勢崎商工会議所などの団体を経由したうえで、こういう実態ですよ、御社はどうですか、どの位置に属していますかなどのアンケート結果を、現場で活用していけるような取組は行われていくのでしょうか。

事務局

まず、こちらの結果が出た段階で伊勢崎商工会議所と群馬伊勢崎商工会へ調査結果を送付しました。また、ホームページにも全て掲載されていますので、会員の方にもご周知くださいということはお伝えしています。また、人権課での啓発活動、例えばパネル展やこちらで委託している団体のハーモニー・ネットが発行している情報紙など、様々な場でこちらの結果をぜひ活用させていただき、広く市民の皆さんに周知して参りたいと考えています。

会長

「配偶者からの暴力事案等の相談状況」の折れ線グラフで、右肩上がりになっており、さらに近年の伸びが非常に大きくて、私の認識だとコロナ禍のストレスの時期の方が高かったのかなと思っていたのですが、令和5年度が恐らく過去最高ではないかと思うのですが、もし要因がわかれば教えて下さい。

事務局

ご指摘いただいたのが警察のグラフですので、そちらに関しては警察の方で把握しているため、なかなか細かい部分までお示しすることができないのですが、関連事項を回答させていただければと思います。9ページの「DV相談件数」のグラフが、伊勢崎市の相談の実績で令和元年から令和5年でお示ししていますが、これ以前の実績から考えても、伊勢崎市も令和5年度は過去最高という結果が出ております。伊勢崎市のことについて回答いたしますが、コロナ禍で相談増えてきたというのは報道などであったかと思うので、警察の相談件数に影響があったと考えられますが、伊勢崎市としては、令和4年度は、コロナ禍で活動制限がかかっていたので、ストレスは溜まっていたけど相談自体を控えていたという実態があったのではないかと推測しています。令和5年度は、完全に5類になって自由になったため、今までは我慢してきたけど、やはり相談してみようといった動きがあったのではないかと推定しております、結果として令和5年度は相談件数が過去最高でございました。

会員

8ページ上のグラフは「配偶者からの暴力事案等の相談状況」は全国ということは、伊勢崎市もだいたい同じ傾向なのかということと、下のグラフは伊勢崎市の令和5年実施の市民意識調査で、伊勢崎市の場合は令和6年4月に配偶者暴力相談支援センターを設置しているのに、令和5年の調査で、2.1%の伊勢崎市民が配偶者暴力相談支援センターに相談しているという結果は確かなのでしょうか。

事務局

群馬県の方にも、配偶者暴力相談支援センターがありますし、他市の前橋市や高崎市などにもありますので、そちらの配偶者暴力相談支援センターに相談したと考えております。

会長

それでは、特に大きな修正等ないようですので、伊勢崎市における男女共同参画の現状と課題について及び第4次男女共同参画計画の骨子案については、案のとおり進めることと決定いたします。

会長

(4) その他について、委員あるいは事務局から何かありますでしょうか。

事務局

〔配偶者暴力相談支援センターの説明〕

4. 閉 会